

・ 昨年辺りから、陽子さんから「打ち返し」という言葉を聞くようになったが、正直そこまでピンと来ていなかった。

でも、よくよく考えると、「打ち返し」と表現していなかっただけで、仕事や日常生活でも、「打ち返し」の場面はよく起きている。(マイルドな「言い訳」とでも言おうか)

仕事でミスがあった時、こちらの意図を汲んで、真っ先に謝罪と対応をしてくれる人がいる一方で、謝罪もなく、自分の都合や事情をいの一番に説明してくる人がいる。

ミスをしたという事実が理解できていないのかと、説明を重ねることになる。そして、ミスが起きたことよりも、その不毛なやり取りに段々腹が立って来ることがある。これもいわば、「打ち返し」だろう。

勉強会の中であった、「打ち返し」は、相手の存在を消してしまうことによって起きているという説明に、ものすごく納得がいった。

成果班の活動の中で、あるメンバーに「あなたの人生の物語には、あなたしか登場人物がいないように見える」とコメントしたことがある。普段のやり取りや個人ボードの投稿を見て、周りの人の存在を感じなかったのだ。それに近いイメージなのかなと思った。

また、相手の存在が消えてしまう理由を参加者同士でシェアし合っている場面で、「自分に矢印が向いてる」、「自分の正当性を主張したい」、「自分を守りたい気持ちが強い」という話を聞いて、打ち返しが起こる時の心情を想像することができた。

コミュニケーションは、相手がいて初めて成立する。キャッチボールは1人でできないのと同じだ。

相手がいなくなった瞬間に、言葉をただ発しているだけで、メッセージじゃないという説明は、合点がいった。打ち返しは、対話ではなく、一方的なコミュニケーションによって起こるんだなあ。

では、相手の存在を消さないためにはどうしたらいいのか？という部分で、相手に興味を持つことが大事という説明があった。

相手に興味を持つ内に、自分の中で相手の存在が大きくなっていく。相手を大事に思えば、相手の存在がなくなることはない。相手より自分を大事にした瞬間に、打ち返しが発生するのだろう。

そして、「どう言ったら相手に伝わるか？」この観点を常に持つことが、否定しないコミュニケーションに繋がるのだと理解した。

今までこういうことなんだろうなと何となく想像していたことのメカニズムがわかって、スッキリした。

今後打ち返しが起きた時、一歩引いて俯瞰できるようになりたいと思ったのと、自分も打ち返しをしないとは言えないので、「どう言ったら相手に伝わるか？」という視点を常に持って、コミュニケーションを取っていきたいと思った。

(E.M 40代女性 埼玉県)